



心の優しさとバリアフリー

大田区立大森第二中学校 三年 福岡 謙太郎

この世の中には沢山のハンディキャップをかかえている人達がいいます。そんな人達が私達、健常者と同じように暮らしやすく過ごせるようにあるのがバリアフリーであると学びました。たとえば、歩道や階段の段差をなくしたスロープや目の不自由な人のための点字ブロックです。

私は、この前にネットで京都に観光客として来た車いす利用者のフランス人男性が、日本のエスカレーターに感動した。という動画を見ました。そのエスカレーターは車いす対応のエスカレーターで専用のボタンを押すことで車いすモードに切り変わり、二つから三つの平らなステップができるという画期的なものでした。そのフランス人男性は、フランスでは高齢化が進んでいる中、バリアフリーが整えられていないそうです。今では日本の当たり前介護車両でも素晴らしいと絶賛していました。

日本での様々なバリアフリーですが、それらは日本の税金で作られているということがこんなにも誇らしいとは思いませんでした。目の不自由な人にとっては黄色い点字ブロックを頼りにして道を進みます。ですが、ハンディキャップをもった人達だけでなく公共施設のトイレにある多目的トイレや力の弱い人にも引ける引き戸など誰にでも使いやすい工夫をされたユニバ

ーサルデザインのものであります。私達もそのバリアフリーに助けられているのだと実感しました。

私はまだ中学生です。税に対してのくわしい知識ありません。税金も消費税のような有名で身近な事しか払っていないと思います。しかも、税金が何に使われているのかもよく知らなかったから、「取られる物」としてのイメージがとても強かったです。ですが、今回の事で身近なもの、当たり前だと思っていた事にも私達の税金が使われていて、それが人々の助けになっているということが分かりとてもうれしかったです。ですが、ハンディキャップをかかえる人達の中でも「心のバリア」が発生してしまっているそうです。エスカレーターの件でも「他の人に待たせていると思うと罪悪感をもつ」や「大きくて目立つ事がはずかしい」といった意見がありました。

私達が平等に暮らしていくなかでも助け合いが必要だと思っています。ハンディキャップのある人達も、そうでない人達です。忙しくて心に余裕がないときは面倒だと思ってしまうかもしれません。ですが、ハンディキャップをもっている人達は心の中で私達健常者がエスカレーターなどを利用してゐるのならゆずってくれたり我慢している現状を忘れてはいけないと思います。お互い様の精神で助け合えるようになります。バリアフリーだけでなく、心のバリアにまで目を向けたような世界や国に発展していくためにも、私も大人になったら税をしっかりと納めて、社会をつないでいきたいと心から思いました。